

釧路南ロータリークラブ会報

第34回 例会報告 2017.3.24 通算1670回

・点 鐘 長井会長

・ロータリーソング
「手に手つないで」



ソングリーダー 工藤 ゆかり会員

・会長挨拶



今日のプログラムは、「水と衛生月間に因んで」ということで、担当委員会の委員長がお休みの為、後程、私とそのテーマについてお話をさせていただきますので、会長挨拶はこの辺で終らせていただきます。

・お客様と来訪ロータリアンの紹介

釧路ベイRC 渡辺雅樹会長

釧路ベイRC 成田育夫 20周年記念実行委員長



・幹事報告



- * 4月のロータリーレートは、1ドル=116円となります。
- * ロータリー囲碁同好会より、第18回ロータリー国際囲碁大会開催のお知らせが届いております
- * 公益財団法人米山梅吉記念館より、2017春号ということで、館報が届いております。
- * 釧路市民憲章推進協議会より、28年度の広報誌 市民憲章くしろが届いております。
- * 各クラブの4月例会プログラムが届いております。

・本日のプログラム
「水と衛生月間に因んで」

担当 広報メディア委員会

◆長井会長



※上川原広報メディア委員長欠席のため長井会長よりお話がありました。

今月は、「水と衛生」月間ですので、水にまつわるお話をしたいと思います。

「水と衛生」は密接な関係がございまして、人が生活していくのに十分な水がない、または、汚染された水を使用せざるを得ない地域では、病気や疫病が流行し、多数の死者を出すことが珍しくありません。RIの資料によると、十分なきれいな水、トイレ、衛生施設を利用できない人々が25億人以上いるということです。今年のこの時期にヴァーチャルウォーターですとか帯水層（地下水）の話を見せていただきましたが、地下水の枯渇による水問題が深刻化すると、人類が生きていくのに十分な食料を生産できず、世界のこれからの不安定要素として、経済やエネルギーと同じくらいに水の問題が浮上する可能性が十分あります。

次にもう一つ、まったく毛色の違うお話を。水つながりで「水に流す」ということわざについて。

「水に流す」とは、人と人との過去のいろいろなごきごきを、すべてなかったことにして、きれいさっぱり忘れて、これからの人間関係を白紙に戻してやり直そうとするときに使われる言葉です。

昔の集団生活は、お互いに助け合い、協力し合うことによって成り立ってまいりまして。特に農耕は共同作業であり、冠婚葬祭なども共同体としての行事として行われてまいりました。だから、人間関係において、仲違いをしたままいつまでも確執を続けていると、集団生活に支障をきたすこととなります。したがって、どこかで妥協する必要があるわけですが、しかし、妥協するには本来は妥協の為の何か理由がなければ、なかなか仲直りにくい。なので、その明確な理由がみつけれないと、主として立場の上の方の人から「水に流そうや」と切り出してあげたり、あるいは仲裁人が

間にはいつ「お互い、水に流しましょう」と持ちかけたりしました。

では、「水に流す」とはどんな意味なのでしょう。昔の人は、自分が悪いことをして、その罪の意識が溜まってきて精神的な負担が大きくなると、流れのきれいな川に浸かったり、滝に打たれたりしました。そのきれいな水によって、自分の体にこびりついた罪が洗い流されると信じていたわけです。そして「禊をすませて、身も心もきれいにする」ことによって、また集団に受け入れてもらえるという観念が通用していました。これが、だんだん、実際に川や滝で身を清めなくても、ある期間、自分にとって相応の負荷をかけることに従事したり、周りから善とみなされる行い、つまり罪滅ぼしとなることをすれば、「禊を済ませた」とみなされるようになってきました。それがさらに簡略化され、神官に「お祓い」をしてもらうことによって、「禊ぎ」を代用させるという形式的なことにまじりました。そして、とうとう、「禊ぎ」の為の具体的な「行い」が無くても、加害者・被害者の当事者が了解すれば、特に何かをしなくても「禊が済んだ」として和解が成立するようになりました。そこには、集団生活においては、出来るだけ早く集団に復帰してほしい、復帰させなければならないという事情があったと思われる。つまり、「水に流そう」は「禊ぎを済ませよう」という意味なのです。

「水に流す」は、ある意味では日本人の美德の思想ともいえるかもしれません。しかし、一方では、問題を根本的に解決しないで、「なあなあ」で済ませてしまふという風土を作ってしまったのかもしれない。

現代社会では、集団生活における一人一人の大切さがあまり重要視されなくなってきました。例えば、会社という組織の中で、社員一人の存在はそれほど重要とみなされなくなったように思えます。そうなる、会社の中で、意見の対立などによって自分が受け入れられなくなったら辞めてしまえばいい。周りも辞めるなら勝手にやめたら・・・と突き放す風潮が強くなりました。このような現代社会における人間関係の濃度の希薄さが「水に流す」という文化・美德を過去のものとしていくのかもしれない。



・次回のプログラム

3月31日（金）

「お客様招待例会」夜間例会

会場 ホテルクラウンヒルズ釧路 18:30～

担当：会員増強委員会

・点 鐘 長井会長

今週の会報担当：長江勉会員